

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成29年4月28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 物質－細胞統合システム拠点

職 名 拠点長

氏 名 北 川 進

助成の種類	<b>平成 28 年度 ・ 社会連携助成</b>			
事業名	エビデンスベースの対話デザインに基づく戦略的アウトリーチ活動の展開			
実施期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日			
実施場所	京都大学iCeMS、科学フェスティバル会場(うめきた・グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル)、京野菜レストラン梅小路公園など			
参加者	総数 約1000人	内訳 「成果の概要」参照		
	成果の概要 タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(活動報告資料など)			
会計報告	事業に要した経費総額	2,900,000円		
	うち当財団からの助成額	2,900,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	デザイン・制作費 (ポスター・教材のデザイン・印刷など)	96,250	96,250	
	消耗品 (活動で使用した教材など)	109,000	109,000	
	消耗品 (文房具や機材など)	207,011	207,011	
	謝金・雇用	857,304	857,304	
	旅費	265,720	265,720	
通信運搬費	1,080	1,080		
請負費 (イベント設営や翻訳など)	1,363,635	1,363,635		
合 計	2,900,000	<b>2,900,000</b>		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 幅広い一般市民が参画できるような社会連携活動を実施するには、一般市民の科学・技術への関心度に合わせた活動のデザインが必要である。今回の助成では、科学・技術への関心度が低い層には、公共交通機関の近くで、服飾やアートを借りた科学技術に関する対話イベントを開催するためのデザインを、関心度が高い層には、科学の見方を具体的に示すワークショップのデザインをし、活動を実施することができた。貴財団の助成を活用することによって、より質の高い活動を実施することができたと思われる。			

## 成果の概要

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)  
科学コミュニケーショングループ

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)は、本助成事業を活用し、平成 28 年度中に以下の科学コミュニケーション活動を実施した。

### 1) 成人&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
サイエンス×アート展 「imagination 2.0」	2016年6月 24日-7月7 日	京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS) iCeMS 本館 1階 正面玄関の廊下	700人以上

iCeMS 研究者から提供された画像や動画を使って制作したドレスや靴などの作品 14点を並べ、科学・技術への低関心層の人々にアプローチすることを目指した\*1。

### 2) 青少年&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
NHK 新番組「カガクノミカタ」との コラボレーション NHK Eテレ「カガクノミカタ」連動 ワークショップ in 京野菜レストラン 梅小路公園：京野菜料理の試食、 シェフのミニトークもあるよ！ 君は、京野菜を見分けられるようになるか！？	2016年 6月11日	京野菜レストラン梅 小路公園	5組 (13 人)
NHK 新番組「カガクノミカタ」との コラボレーション NHK Eテレ「カガクノミカタ」連動 ワークショップ in 京野菜レストラン 梅小路公園：京野菜料理の試食、 シェフのミニトークもあるよ！ 君は、京野菜を見分けられるようになるか！？	2016年 7月30日	京野菜レストラン梅 小路公園	5組 (19 人)
親子連れ向けワークショップ NHK	2016年	うめきた・グランフ	25組

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成28年度 社会連携助成  
「エビデンスベースの対話デザインに基づく戦略的アウトリーチ活動の展開」

<p>E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」</p> <p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 SUMMER」内のワークショップとして実施</p>	<p>8月 13-14日</p>	<p>ロント大阪北館 1階ナレッジキャピタル内 ナレッジプラザ&amp;カフェラボ</p>	<p>(52人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ「しっかり遊べ。京都大学発ボードゲームで研究者の働き方、チームや班の中での働き方を学ぶ。」</p> <p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 SUMMER」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 8月 14日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館 1階ナレッジキャピタル内カフェラボ</p>	<p>8組 (18人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ「細胞育成ゲーム「幹細胞研究やってみよう！」～しっかり遊べ。遊びながら学べ。～」</p> <p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 SUMMER」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 8月 14日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館 1階ナレッジキャピタル内カフェラボ</p>	<p>8組 (18人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」</p> <p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 AUTUMN」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 11月 12日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館 3階 ナレッジキャピタル内 エナレッジ</p>	<p>22組 (49人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ「しっかり遊べ。京都大学発ボードゲームで研究者の働き方、チームや班の中での働き方を学ぶ。」</p>	<p>2016年 11月 13日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館 3階 ナレッジキャピタル内 エナレッジ</p>	<p>7組 (15人)</p>

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成28年度 社会連携助成  
「エビデンスベースの対話デザインに基づく戦略的アウトリーチ活動の展開」

<p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 AUTUMN」内のワークショップとして実施</p>			
<p>親子連れ向けワークショップ「細胞育成ゲーム「幹細胞研究やってみよう！」～しっかり遊べ。遊びながら学べ。～」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 AUTUMN」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 11月13日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館3階 ナレッジキャピタル内 エナレッジ</p>	<p>5組(12人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2017 SPRING」内のワークショップとして実施</p>	<p>2017年 3月18日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館3階 ナレッジキャピタル内 エナレッジ</p>	<p>14組 (30人)</p>
<p>親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『カガクノミカタ』連動ワークショップ *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2017 SPRING」内のワークショップとして実施</p>	<p>2017年 3月18日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館3階 ナレッジキャピタル内 エナレッジ</p>	<p>19組 (45人)</p>

商業施設グランフロント大阪内で開催されたフェスティバルの一環として、親子を対象としたワークショップを実践した。NHKの理科教育番組を活用した「科学の考え方を学ぶことができるワークショップ」\*2,3,4,5と iCeMS 研究者が開発に関わったボードゲームを活用して「研究者の仕事」\*6,7 および「幹細胞研究」\*8,9 について学ぶことができるワークショップの2種類を実施した。

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成28年度 社会連携助成  
「エビデンスベースの対話デザインに基づく戦略的アウトリーチ活動の展開」

3) 成人&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
第19回 iCeMS カフェ：体の中の合 図一元気の秘密を観察し、操るー	2016年 6月25日	京都大学 iCeMS 本 館 2F 交流ラウンジ	11人
第20回 iCeMS カフェ：無限の可能 性を保つー暴れん坊細胞を躰（しつ） ける！ー	2016年 10月22日	京都大学 iCeMS 本 館 2F 交流ラウンジ	15人

iCeMS の研究者との対話の場としての iCeMS カフェを開催した<sup>\*10, 11</sup>。iCeMS カフェでの参加者と研究者の対話が、互いに学び多いものになるように、研究者には iCeMS カフェの事前事後に対話力トレーニングを実施した<sup>\*12, 13</sup>。

注釈

\*1：開催報告は iCeMS および iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2723>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/06/-imagination-20.html#report>

添付資料 1 参照。

\*2,3：開催報告は iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/04/nhk-ein-20166.html#report>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/06/nhk-e-in-20167.html#report>

添付資料 2, 3 参照。

\*4,5,6,7,8,9：開催報告は iCeMS および iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/08/-2016-summernhk-e2016-1.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3183>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/09/-2016-autumnnhk-e2016.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3261>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/07/-2016-tatewari-2016.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3192>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/09/-2016-autumntatewari-2016.html>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3269>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/07/-2016-summer2016.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3197>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/09/-2016-autumn2016.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3268>

添付資料 4,5,6,7,8,9 参照。

\*10,11：開催報告は iCeMS および iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/09/20-icems.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2735>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/06/19-icems.html#report>

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/news/3163>

添付資料 10,11 参照。

\*12,13：開催報告は iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成28年度 社会連携助成  
「エビデンスベースの対話デザインに基づく戦略的アウトリーチ活動の展開」

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/06/19icems.html#report>

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/09/20icems.html#report>

添付資料 12,13 参照。